

..... 協会 50 周年に思う

PCO と私



公益社団法人 東京都ペストコントロール協会 理事
国立感染症研究所 名誉所員

安居院 宣昭

創立50周年、おめでとうございます。私のPCOへの関わりは、研究機関で昆虫生理学の基礎研究や衛生昆虫の応用研究をしてきた現役時代からリタイア後の今日に至るまで、ほぼ四半世紀に及びます。長きに亘るPCOとの関わりの中で、私が意識してきたことは、大学や研究機関が行っている多様な学術的な研究成果を防除の現場にいかに応用するか、様々な生物種が防除現場で起こす新たな問題を基礎研究の課題としていかに汲み上げるか、そして、このような基礎と応用分野の問題を繋ぐパイプ役として、いかに役立つことが出来るかということでした。残念ながら力及ばずで、そのような役割の達成感はいまだ得られていません。とは言え、現在も当協会の外部理事の立場にある者として、有害生物防除を目的とする技術者集団としてのPCOにとって、極めて基本的な事柄を以下に提言します。

数ある生物種の中で人の生活に問題を起こす種は限られています。限られている種とは言え、それらの防除に際してまず求められることは、正確な分類・同定により防除対象の種名を知ることでしょう。その結果、その種に関する蓄積された形態・生理・生態等の生物学的特徴に関する知識や情報を有効に活用することが可能になります。しかし、防除対象種のこのような知識と情報の習得と蓄積には、日頃から専門書・文献などによる学習と関連学会などからの情報収集の努力が求められます。さらに、公益的事業を推進する企業体として、PCOの重要性が高まりつつある状況下で、関連行政組織ならびに大学、学術研究機関、学会等とのより緊密な相互交流が求められます。微力ではありますが、PCOに求められるこれら活動推進の一助になればと願う次第です。